

平成28年度学校評価(慶應義塾高等学校)

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
---------	--

本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一面を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。
-------	---

学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は必修科目・選択科目について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。
------------------	--

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 読解力、表現力およびその基礎となる語彙力の向上を図る。 古文、漢文の学習を通して、伝統文化の継承を企図するとともに、その本質を理解させる。	①古代から現代に至る多くの作品に触れさせる。 ②読解の解説にとどまらず、発展的に考えるよう指導する。	①多様な教材を取り上げることができた。 ②レポート・作文課題などで深く考えさせることができた。	A	定番教材と新しい分野の文章をどのように配分するべきか、部会全体でもう一度検討すべきである。
	地理歴史 基礎的知識を身につけながら、具体的に歴史的事象や地理的概念を学ぶことで、社会的認識を広め、論理的思考力を養う。	歴史的資料や映像、地図などを利用して人類の歩みや空間的認識を深める。	担当者の専門性を活かしつつ、歴史的・地理的事象や概念を概ね学ばせることができた。また、論理的思考力を一定程度養うことができた。	B	授業時間が潤沢にないため、授業で扱えない分野が存在する。今後とも、歴史資料や教材の精選に努め、多角的な視野から授業を展開できるようにしたい。
	公民 特に近現代の日本・世界の諸問題を扱いながら、現代社会を俯瞰するうえで必要な、さまざまな分析視角を理解させる。	1年次の授業において、様々な事例を取り上げつつ、問題発見・解決能力を涵養する。必要に応じて発表や演習なども取り入れる。	ディベートや討論などを行い、問題発見・解決能力を向上させることができた。	B	幅広い分野を扱うため、時間的に今年度扱えなかったテーマを取り上げるように工夫していきたい。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	前向きに取り組んでいる。	A	より自主的な学習習慣と、より正確な計算力が備わるようにしたい。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、生活に関わる現象が科学と密接に関連していることを理解する。	体験的な実験、観察を含む学習を通じて、実際に生じている現象と科学的知識が関連していることを示しながら展開する。	指導要領に示された内容を、より体験的に、より生活との繋がりが感じられるよう工夫して授業展開を行った。	A	教科書理解と、実体験、そして生活との繋がりを意識する展開ではどうしても授業時数が不足しがちである。扱う内容の厳選を意識していく予定である。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	保健体育 身体活動を通じて公正、協力、責任など基本的な考え、行動を身につける。 健康・安全について各自が関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を育てる。 また、昨年度の課題である怪我の予防に取り組む。	運動において体力差や技術差を考え各々が役割を意識しながら取り組む。また、ウォーミングアップの重要性をより理解させ、それぞれ運動の特徴を理解させる事で怪我を予防する。 BLS教育を通じ健康・安全について関心を高める。	各々が目標について理解し、主に集団競技の中での役割や責任はそれぞれに考えて行動していた。また、丁寧なウォームアップと説明、実践により中・重度の怪我が少なく予防に役立った。	A	上級生になれば体力差や技術差を理解し取り組むことが出来るが、下級生には、その差も大きくまた責任や役割への配慮を考える余裕も少ないと思われるので、さらにより丁寧な説明を実施し目標の達成度を高めたい。
	芸術 個性豊かな表現力と幅広い知識や鑑賞能力を伸ばす。	基礎的な表現方法の実習と鑑賞の授業をバランス良く取り入れ芸術的感性を高める。	主体的な学習態度を育て感性を伸ばすことができた。	A	引き続き芸術体験を豊かにし、感性を育て、個性豊かな能力を高める。
	外国語 英語 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく伸ばし、多言語・多文化への理解・寛容性を育む。 第二外国語 基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。 それぞれの言語を通して他文化への理解を深める。	単語・文法など知識学習に加え、コミュニケーション活動を通じて、表現・対話の技術を高める機会を提供する。 2年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。 全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、3年次での学習にも繋げる。	さまざまな題材を通して、英語技能の強化に加え、多言語・多文化への理解・寛容性を育むことができた。 生徒のレベル差が見られる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B A	人数の多いクラスについては、ペアワーク・グループワークなどを積極的に取り入れることによって、さらに表現活動の機会を増やしていく。 ①定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ②リスニング練習の回数を増やす。 ③実践の機会をさらに増やす。
	家庭 自立して生きるために必要な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力と態度を育む。	現在の生活において実践できる調理・裁縫実習を行い、生涯を見据えた自立への意識を高める。	実習を取り入れたことにより、十分とは言えないが、自立に対する意識を高めることができた。	B	自立に対する意識をより高めるために、様々なテーマを取りあげ、授業内容と方法について再検討する。
	情報 問題解決に必要な情報収集を、生徒が積極的に自分の力で行えるような環境を整える。	提示する問題を、生徒の身近な話題に近づけるとともに、情報収集の手法について教員間の意見交換を綿密に行い、生徒への例示方法を工夫する。	生徒に身近な話題を提示し、自分の力で情報収集を行う機会を提供できた。ただし、その結果を評価する仕組みがまだ不十分だった。	B	社会の変化が激しいため、話題の不断の検討が必要となる。 また、生徒の情報収集の結果を評価する方法を考案しなければならない。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
選択科目	国語 「古文」「日本語」 さらに発展的な学習を、自発的に継続して行けるよう指導する。	担当者の専門性を生かし、必修では扱えない高度な作品も読み込む。	必修では扱いにくい教材・内容を採り上げて、生徒の興味関心を高めることができた。	A	生徒の学習ニーズをどのように、どの程度反映させるか検討する。
	地理歴史 「現代史」 必修科目で培った基礎的な知識をもとに、より高度かつ専門的な学問的成果に触れさせる。	担当者の専門性を生かしつつ、具体的な史料・資料を使用しながら分析能力を養う。	第二次世界大戦後から2000年代の日本、世界の歴史について概観できた。テストでは思考力を問う問題も出題した。	A	調べ学習と発表、討論など、生徒が主体的に取り組む作業を加える余地はまだある。
	公民 「政治入門」、「経済入門」、「法律入門」、「高大一貫講座」 大学の講義に直結する内容を扱うことで、大学での主体的学習に向けたモチベーションを高める。	担当者の専門性を生かしつつ、また大学とも連携しながら、より高度な内容を扱う。	専門性を生かした講義を行うとともに、大学から講師を呼び高度な内容を扱うことができ、大学との連携が深まった。	A	さらなる大学や外部との連携を図ることで、社会科学系学部を志望する生徒の進路選択に役立つ高度な内容にしていきたい。
	数学 基礎学力を充実させ、論理的思考力を育む。大学進学後に要求される高度な思考力、迅速かつ正確な計算力を養成する。	3年次に4科目を設置する。大学の授業に円滑につながるよう、授業を工夫する。	前向きに取り組んでいた。	A	より自主的な学習習慣が備わるようにしたい。
	理科 必修科目を通じて修得した知識、技能をより深め、専門性の高い環境で活躍できる基礎を醸成する。	より専門性の高い実習を行い、また問題演習なども扱うことで、深い現象理解と高い解法スキルを養う。	実験や観察を中心とした授業展開を行い、体験と座学双方のバランスを取りながら自然や自然現象の理解を深めさせることができた。	A	大学での学習をより意識し、特に医学部、理工学部に進学して役に立つ内容については基礎をしっかりと固める展開を行う。
	芸術 1,2年次に培った経験を生かし、創意・工夫した、より高度な作品製作をする。	3年次に3科目を設置する。	生徒各自の個性と能力を引き出し、高い目標に向かって取り組むことができた。	A	より各自の多様性に対応できる取り組みと高い創造性をを目指す。
	外国語 英語 単語・文法など知識学習に加え、コミュニケーション活動を通じて、表現・対話の技術を高める機会を提供する。	講座の特色を生かした教材選択・課題設定を行い、自律学習を促進する。	多くの講座に於いて、生徒の学習や英語コミュニケーションに対する積極的な姿勢・態度が観察され、概ね目標が達成されたと考えられる。	A	生徒の活発な授業参加が継続するように、教材の多様化、アクティビティの工夫、を行っていく。更にこれらの活動に対する評価方法について研究を積む。
	第二外国語 読む・書く・聞く・話すの4分野をバランスよく伸ばし、総合力を高める中で、異文化理解も深めていく。また、大学での学習にも繋げていく。	3年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。 2年次での学習を振り返りながら、より実践的なコミュニケーション活動なども行い、向上心と意欲を高める。	生徒によって達成度は様々であるが、取組目標は概ね達成できた。	A	生徒がよりアウトプットをできるようにするため、授業展開など工夫・改善をしていきたい。
	家庭 食生活、衣生活を中心に、実践的な力を身につけるとともに、日本の伝統文化について理解させる。	日本料理の実習、着物の着付け体験を実施することにより、和食、和装について関心を高める。	様々な実習を取り入れたことにより、取組目標は概ね達成できた。	B	和食と和装に対する知識・技術の修得のために、授業内容と方法について再検討する。
情報 生徒にとってややハードルが高い内容を含む「統計」分野の理解度を向上させる。	より興味・関心を惹くような具体例を数多く提示することで学習意欲を高める。	昨年度より具体例の提示数を増やしたが、理解度の向上に寄与したかどうかは不明であった。	B	引き続き「統計」分野の理解度向上が課題。年間計画の中で「統計」分野を扱う時間を増やす。	

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
特別教育活動					
クラブ活動	部活動を通じて生徒の健全な心身の育成をめざすため、部活動での安全管理を徹底する。	キャプテン・マネージャー会議や監督・コーチの会等を通じて、安全管理に関する講習会を実施する。	熱中症・脳震盪対策について、各会議で資料を配付し、その対策を図った。監督・コーチに対してBLS講習会を実施した。	A	部活動の指導者に対して、継続的にBLS講習会を実施する。必要に応じて、けが・事故等の防止策の資料を配付する。
生徒会	部活動への経済的支援を充実させる。他校生徒会や卒業生との交流を図る。	全国大会出場支援募金を行い、その経済的負担を補う。招待会議を通じて他校生徒会役員と積極的に交流を図る。	旅費支援に関して、1クラブの旅費支援を年間最大で50万円から75万円に増額支援ができた。他校生徒会役員を招待会議に呼びかけ、多くの議題について積極的に議論を交わした。TEDxの開催、生徒会主催の学部説明会を通じて卒業生と交流を図ることができた。	A	充実することができた。支援募金は保護者会等を中心に継続して実施する。招待会議・TEDxはこれからも継続して実施する。
安全管理					
設備	教職員の相互の協力を得て、継続的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。	定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕を行う。	部室棟を中心に大掃除並びに点検を前後期各1回実施した。老朽化・破損した危険な箇所は、その都度速やかに対処した。部室棟・柔道場の耐震工事を実施した。	A	教育施設・設備の保守・点検を定期的に実施する。教職員の相互の連携を図り、問題発生時のみならず今後予測される教育施設の修理・改善を積極的に行う。
保健衛生	校内施設の衛生管理を行い、生徒が快適な学校生活を送ることができるよう環境を整える。	年2回、環境衛生調査を継続的に実施する。関係スタッフと相互に協力し、教室環境の充実を図る。	環境調査を年2回実施し、教職員相互に問題意識を高めることができた。ホームルーム教室に換気扇を取り付けた。第一校舎南側のトイレを改修した。	A	継続的に環境調査を実施する。必要に応じて、保健衛生に関する情報を提供していく。
危機管理	非常時・緊急時に対応できる体制をつくり、被害の拡大を防ぐ。	1年生を対象にBLS講習を継続的に実施する。緊急時一斉連絡システムを継続する。非常時・緊急時の保存食・水の充実を図る。	BLS講習を1年生の保健の授業内で実施した。また、部活動の監督・コーチ・教職員を対象にBLS講習を実施した。緊急時一斉連絡システムを継続した。非常時・緊急時の保存食・水を新しいものに取り換えた。本校備え付けのAEDを定期的に点検した。	A	教職員も含めた各種講習会等を実施し、安全に対する意識の向上に努める。非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行う。
運営					
図書	図書の増加に伴い、書架が足りなくなりつつあるため、対策をとる。 2018年度移転準備の一環として、保存書庫の整理を行なう。	開架書架の配架を平均化するべく、図書の移動を実施する。また、保存書庫の図書のうち、出版年が古く大学で所蔵しているものを除籍する。図書の全体量を減らした上で、保存書庫内のコーナーで分断されたものを一本化する。	春休み期間に、開架書架の図書移動を実施した。夏休み期間を使い、保存書庫の除籍作業、書架移動を実施した。その結果、2～3箇所に分断されていた参考図書、大型本、特大型本がそれぞれ1箇所にまとまり、図書を探しやすくなった。	A	教員との連携強化および、より多くの生徒に図書室を活用してもらうための働きかけを行ないたい。また、2018年度に予定されている新教育棟への移転の準備も引き続き行なっていきたい。